

# 10. ヒラメ資源回復共同放流推進事業

村瀬慎司・戸澤隆・鈴木洋行

漁獲量が低位水準にあるヒラメ資源の回復を図るため、県内における効果的な放流手法を確立するとともに、共同放流に向けた放流効果の推定を目的として取り組んだ。

## 1. 標識放流の概要

各地域の栽培漁業推進協議会(以下、「栽進協」)による放流結果を表1に示した。放流海区ごとに標識部位及び耳石標識(ALC)の回数や径の大きさを変えた各栽進協の放流尾数は10~60千尾の合計210千尾であった。放流は、平成28年2~3月に行われ、放流種苗の平均全長は69~90mmであった。

表1 標識放流結果

栽進協名	標識放流尾数	放流時期	放流サイズ	外部標識部位	内部標識
対馬	10千尾	3月	85mm	背鰭	ALC2重(間隔小)
香岐	20千尾	3月	89mm	背鰭	ALC2重(間隔大)
東北地域	40千尾	3月	77mm	背鰭	
大村湾	30千尾	3月	70mm	しり鰭	ALC1重(小径)
西彼地域	30千尾	3月	90mm	しり鰭	
橘湾	60千尾	2月	83mm	しり鰭	ALC1重(大径)と2重
五島	30千尾	3月	74mm	背鰭	ALC1重
合計	210千尾				

## 2. 放流効果調査

### 方法

**市場調査** 県内各海区のヒラメが水揚げされる主要漁協(市場)において、漁期中月に1~4回の頻度で魚体測定、無眼側の黒化及び標識の確認を行った。市場調査で検出された標識魚は購入し、標識部位、耳石標識(ALC)及び耳石輪紋数から、放流海区及び放流年を判別した。

**漁獲統計調査** 市場調査の対象漁協(市場)の水揚げ伝票により、漁業実態や漁獲物の全長組成を考慮して、1年を3期(1~4月, 5~8月, 9~12月)に分け、期別の漁獲量、漁獲金額を集計した。さらに、市場調査で得られた全長データを基に調査漁協(市場)ごとに、全長と体重の関係式を用いて期別調査重量を算出し、期別漁獲量、調査重量及び調査尾数から期別漁獲尾数を推定して放流効果算出の基礎資料とした。

**放流効果推定** 調査漁協(市場)ごとの市場調査結果から、期別に標識魚の混入率を求め、漁獲統計調査で得ら

れた期別漁獲尾数を乗じて放流群別の回収尾数を推定した。上記で得られた調査漁協(市場)ごとの放流群別の回収尾数を海区全体に引き伸ばす際には農林統計年報値を用いた。1海区あたり2調査漁協(市場)以上の場合は、漁業の実態や漁獲量の偏りから農林統計値の割り振りを行った。また、農林統計年報値が公表されていない平成27年については、漁獲統計調査で得られた各海区の主要漁協の漁獲量から農林統計値を推定した。

### 結果

**市場調査** 平成27年の各海区の推定漁獲尾数及び市場調査の結果を表2に示した。各海区の推定漁獲尾数は5,081~87,861尾の合計239,791尾と推定された。その内、調査尾数は121~4,250尾の合計8,518尾で、標識魚が合計128尾検出された。

表2 推定漁獲尾数及び調査結果

海区	推定漁獲尾数	調査尾数	標識魚尾数	放流海区
対馬	5,081	121	0	
香岐	8,126	378	4	香岐, 橘湾
北松	87,861	4,250	38	香岐, 北松, 大村湾, 西彼, 橘湾, 有明海, 五島
大村湾	19,982	152	9	大村湾
西彼	36,312	1,104	45	香岐, 西彼, 橘湾, 有明海, 五島
橘湾	24,378	224	5	香岐, 橘湾, 有明海
有明海	28,381	1,735	27	有明海, 橘湾
五島	29,670	554	0	
合計	239,791	8,518	128	

**放流効果推定** 産地別の標識魚推定回収尾数を図1に示した。平成27年は、対馬と五島を除く各海区で、標識魚の合計の回収尾数は3,843尾と推定された。産地別の推定回収尾数は西彼が1,505尾で最も多く、産地で大きな差が見られた。一方、放流海区別に見ると、橘湾と大村湾放流魚の推定回収尾数が多く、それぞれ1,048尾、1,073尾と推定された。

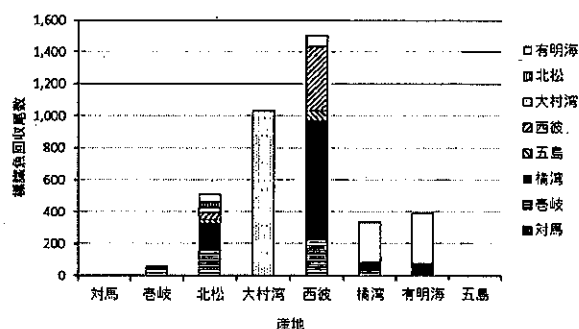


図1 産地別標識魚回収尾数

(担当:村瀬)